健康コラム

胃カメラ検査が受け易くなる話

秋田厚生医療センター 内視鏡室
看護主任 福司（ふくし） 雄太（ゆうた）

本県の胃がん死亡率は1995年以降26年連続全国1位です。一方、医療の進歩により胃がんは早期発見で治癒可能ながんとなっています。そのため定期的な検査をお勧めしています。

胃がん早期発見のためには胃カメラが有効です。胃カメラに対しては〝苦痛〟というイメージが強く、抵抗感・恐怖心をお持ちの方も多いと思います。そういう方でもお勧めできる経鼻内視鏡（鼻カメラ）や鎮静下での検査があり、当院でも症例数が増えているので紹介します。

～経鼻内視鏡～

これまで、内視鏡は口から挿入するのが一般的でしたが、最近では外径が約5㎜の細い内視鏡が登場し、〝経鼻内視鏡検査〟という鼻から挿入する方法で検査が行えます。経鼻内視鏡検査は、内視鏡が舌のつけ根に触れないので、口からに比べ、検査時の吐き気や不快感が大幅に軽減できることが期待されています。

一方で、経鼻内視鏡は一般の内視鏡と比較すると画質がやや劣り、また、行える処置も限られます。さらに患者さんの状態（検査当日に花粉症や風邪で鼻の粘膜がむくんでいる、元々鼻腔が狭い等）によっては、鼻からの挿入が難しい場合もあります。しかし、より負担の少ない経鼻内視鏡によって、内視鏡検査がさらに身近なものになると期待しています。

～鎮静下内視鏡～

内視鏡検査による苦痛軽減のために鎮静剤を使用して検査をします。鎮静剤はいわゆる麻酔薬です。ほぼ眠った状態で検査を受けることができるので、「気付いたら検査が終わっていた」ということになる訳です。

この鎮静剤を使用した内視鏡検査が普及してきたのはここ数年です。それまでは鎮静剤を使用せず、意識がはっきりとある中で検査を行っていました。そうなると、胃カメラであれば吐き気や不快感が辛く、〈内視鏡検査＝苦痛〉という図式が出来上がった原因と考えられます。

ここで、鎮静剤を使用することによって生じるメリットとデメリットをほんの一部ですが紹介します。

［メリット］

眠っている間に検査が終わる

鎮静剤を使用することによりほぼ眠っている状態（効き目には個人差があります）で検査を受けることが可能になります。そのため、苦しい思いをしたくないという方や、嘔吐反射が強いという方には、メリットは大きいと言えます。

［デメリット①］

車の運転ができない

鎮静剤を使用した場合には、検査後の車の運転は非常に危険であるため禁止事項です。交通手段が車しかない方は、タクシーを利用するなどといった交通の手配をする必要があります。検査後の就業も判断力の低下を懸念しお勧めしません。

［デメリット②］

副作用が発生する恐れがある

鎮静剤も医薬品です。全ての医薬品には副作用が起こる可能性があり、鎮静剤も同じです。医師も細心の注意を払って鎮静剤を使用しますが、アレルギーや呼吸状態の悪化、血圧の低下などをきたす場合があります。

最後に、当院での経鼻内視鏡検査、鎮静下内視鏡検査は完全予約制で、1日に行える数には限りがあります。これから検査を受けてみようと考えておられます方は、外来でご相談ください。

★今月のあなたの運勢 2022年6月★ 蠍座（10.24～11.22）周りの状況に振り回されがち。怒りは抑えつつも主張すべきところは主張して。丁寧な作業を心がけると好転